



定額一割金或一ヶ月金五拾五圓
 廣告料五號十二字一行情五拾錢
 日曜祭日 休刊
 發行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式會社

常磐炭田の開發と

片寄平藏

山口彌一郎

【七】

5、江戸との取引
 江戸との取引は相當古くから續けてゐたらし親の忠次郎代より引續き深川の

寶田屋及びその一家である明石屋大阪屋と取引をしてゐた。藩公の御用金を調達したり相場の變動親忠次郎の死去村方との折合等も悪く一時は相當困窮したこともあるらしく次の文書は常に本店としての恩顧を受けて居る寶田屋に細々と窮狀を訴へたものである。

口上書以奉願上候
 右は木場和倉御店様御友人又兵衛様御代より祖父利兵衛親忠次郎私迄引續き外問屋江荷物壹束相送候事之無御店様計數年來間取引仕候内格別の御憐愍を以て是迄取續罷仕御厚志の程忘却不仕心配致居候處格別の損分折重り備用高大金に相成奉恐入候に付損分之廉々左に奉申上候間御被見奉願上候一金五百兩也

右は秋田割木兩の約定に

て被罷下り候處追々下落致候趣にて不殘七八十位之仕切に相成り其外下駄甲にて損分に相成候一金八拾兩也

右は秋田割木多數に付捌方不宜當時屋根板上相場に付右板に割候方可然御店一統御相談の上御店の浦にて割方致候處是又下落損分仕候一金百兩也

右は辨天丸貳百五十石積御店様御手形に相成候事相成四百石積みに御直し候砌存外の大金相掛り御調合方に差支候趣に付き私と御調合有之候間出府度毎御取度被下候様申上候處外に致方も無之候間此の後の仕切には千五百程の高に相成り候間其節仕切調合都合被下候仰聞候處急に日本橋に御出に相成り其儘に相成居候此分とも利足九十兩計も相掛居申候乍去與兵衛様御出有之候得ば申上様も無之候得共當時御出之事故御開合に相成り而も不苦候間右御賢察奉願上候右之外不專之損分ごも是は毎々申上兼御勘辨

奉願上候

仕切殘金々高千五拾五兩之借用に相成り全く大金に相成候ては利足の勤も出来兼ね候自然と行届き不申様相成候ては不實の次第にも御取受相成可申奉恐入候間御後見寶田屋太郎衛門様、大阪屋孫衛門様御兩所江相願候處此節より直様御開濟候様に相成兼候間當寅より辰年迄三ヶ年之間儉約第一に致し多少共金入金相成候は願之通無相違年賦取計可遣旨被仰聞候



寒夜の祈

平こんばる内
 たか子

風寒く
 如月夜の松ガ岡
 あまこ神社の影黒く
 むかすく宮の鈴の下
 何を祈るか
 陰一つ

平の殿御

磐城平の城下街通る
 いさな殿御のほろよい姿
 節にや早いけどさくららの音頭
 いさな殿御のくちささみ

謝恩と奉仕

燃ゆる大塚へ……

靴!! 五圓以上一割引

- 斬新なるスタイル
- 精選された材料
- 堅牢極まる品質
- 驚く可き廉價

大塚の靴

平・田町

大塚製靴部

電話七十七番

新築感謝
 萬年筆大賣出
 上呈品景りよ日二舊

記念金文字御名入無料
 お氣に召す迄金ペン交換

五ヶ年絶対責任付
 定價二圓以上
 品種豊富

角忠
 平紺屋町角公園前
 佐々木商店
 電話二三三番

吉例 舊正月二日 景品付

店内寶探し大賣出し

どうぞお早く御来店下さい御買上一圓毎に寶探し券一枚宛進呈致します。何卒店内を御自由に御探し當て下さい。

◎景品大々的奮發

金指輪 美術置時計 机腕時計
 其他……

福運は誰に?

平驛前通り

ダイヤ堂 鈴木時計店

舊正月二日

吉例景品付大賣出し

平町三丁目

大勝園

電三九六番

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木正男
 平町田町(電話五八番)
 藤田女學校前

自炊のお需めに應ず
 入院の便あり

吉例 景品付大賣出し

平素の御引立に報ゆるため優良格安品
 豊富に取揃へ景品も大奮發して年一回
 の御禮大提供!
 舊正月三日の二日間

あかや洋服店

先づ身心の鍛練へ

白米一升に金十錢を持ち寄り

男女青年一夜講習會

限りである

青沼平町長は非常時日本を叫ばれる今日市内男女青年の身心鍛練を計る爲め來る廿一日午前九時より翌廿二午後四時迄男子は九品寺、女子は磐城家政學院に於いて修養一夜講習會を催す事になつたが會員は當日白米一升に現金十錢を持參して日本修養團本部の宇津木靈水氏の講演を受けるもので時節柄多數の希望者を出すと思はれて居る尙定員は百名で申込期日は本月十八日

中等校卒業式

警中は三月七日

平町各中等學校に於ける本年度卒業式は既報の如く警中(三十四回)三月七日午前十時、平商(十九回)同十二日午前九時、警女(二十二回)同十八日午前九時より舉行されるが卒業生數は警中二百十六名、平商三十八名、警女百八十五名である

新學年入學兒童

平町で六百七十一名

平町各小學校に於ける新學年の入學兒童取扱ひは來る三月二十五日一齊に行ふ事になつたが入學兒童は目下の處第一、二百七十七名第二、二百十八名、第三男百二十五名、女百十二名の見込みで未だ寄留届の濟ない者は大至急届出らねばならぬ

初貯蔵

割當額突破

本郡への初貯蔵額の割當は一萬七千石であるが昨年十一月より本日十日までの郡下各町村の總貯蔵高は一萬七千四百六十七石二斗で既

平町三小學校

授業時間短縮

舊正月のため、明日より二日

平町各小學校では明後の日間舊正月に當るので始業時間を午前九時に遅らせ豫習復習を廢し午前中に終ら

訓導に引卒業され常磐銀行平支店を見學した

小學校

童話會

平第二小學校では本日午後一時半から同校講堂で童話會を催し同校四年生以上が本社長川崎小島氏並に東京市の童話家三村良輔氏のお伽話をきいた、尙は同日平第三、第一兩小學校でも夫々午前十時半十一時半から三村氏の童話をきいた

青年團總集會

來月四日聚樂館に開催 併せて劍道大會を舉行

石城郡第三方面青年團總集會は昨日の團長會議の結果來る三月四日午前九時より平町聚樂館に於て開催する事に決定したが當日は各分團代表二名宛の意見發表及び劍道大會を行ふ外名士の講演映畫會等がある筈

高月旬會例會

高月旬會例會は來る三月三日午後六時より平二丁目萩野天仙氏宅に於て開催されるが宿題は春淺し風雉子等である

陸士合格

平長橋町警中五年生關内三郎君は去る十二月上旬執行された陸軍士官學校入學試験に應募受験したが最難關を見事突破して本日合格の通知があつたと

鮫川水利組合

工事着手協議

鮫川普通水利組合では本年度鮫川の改修工事着手に就いて來る十七八の兩日團體事務所樓上で臨時總會を開くと

金肥の總額 十萬貫

豆粕が第一位

平町役場最近調査に係る市内商店で取引した昨年度の金肥肥料高は總計十萬貫のうちの多いのは豆粕の三千五百五十貫金額八百十六圓で次は硫酸安母尼亞が八百八十貫三百八圓、鱈粹粕が五百五十貫六百六十五圓最も少ないのが菜種粕の二十貫九圓等である

平百面鏡

自慢の新車

ゼネラルモーターズ製一九三四年型シボレートラックは本日三丁目福島モーター商會平出張所に入荷したが創立二十五週年に當るため記念として特に入念に幾多の大改良を加へて製作されただけに素晴らしい優秀車で各方面より好評を博してゐるがなほ乗用車セダン型も之れまた幾多の改良を加へられ今月下旬發表三月下旬より一般に賣出される筈

萬年筆特賣

佐々木商店發

平町公園街屋町に新築移轉した佐々木商店では來る舊正月二日より新築感謝萬年筆大賣出しを開始するが全部五ヶ年間の責任付で買上げの方には記念として金文字御名入を無料で奉仕する

マルモ書店

盛澤山の景品

四丁目マルモ書店では舊正月二日の賣出しに特價品を豊富に取揃へ大奉仕を行ふべく目下準備中であるが當日は午前一時開店で景品として早がけの御客様で一杯以上御買上の百名に對て巻戸視箱一個同次番の御客様百名には硝子製インクスタンド一個商品券の五圓以上御買上の方には美麗額縁一個を進呈すると

江戸前料理食堂

錦水自慢の料理を始めました

大和漬 志きやき 鬼からぐそくに 御試食下さい

錦水

電話四五四番

平町人事

回死 亡
△研町一六 孝一氏長男本岡實(二四)

平職業紹介所報告

回人を求める方
△外交員 五十迄 尋卒
給料面談
△トラック助手 二十三才 尋卒 月十圓
△線糸工 三十才 尋卒 給料面談
△女工 三十迄 尋卒 給料面談
回職を求める方
△旅館番頭 二十八才 中卒 給料面談
△鍛冶工 三十五才 高卒 給料面談
△事務員 二十才 中五在 給料面談
△土工夫 三十七才 尋卒 給料面談
△女事務員 二十三才 高女卒 給料面談

湯本の煙草屋へ

兇器所持の賊

犯人猶ほ未就縛

本十三日午前三時頃嚴重な平署の歳末特別警戒網を潜つた大膽な怪盗が湯本町字上町雜貨煙草業川又兼吉方に侵入り家人の熟睡中に店舖にあつた朝ハ、バット、響等の大型八箱時價五十圓を窃取して逃走したのを間もなく家人が発見大騒ぎとなつたが店内には犯人の持参して来たらしい短刀あつたので目下平署では全力を擧げて捜査中である

根本氏美學

けふ町財へ寄附

平町月見町三十肥料商根本房治氏は本日皇太子殿下の御降誕を記念する爲め町役場に出頭小學校基金として百圓警備基金に五十圓國防費に三十圓合計百八十圓の寄附を申出たので町役場では直に受納した

自動車を雇つて

酌婦二人を誘拐

犯人の足は新潟へ

豊岡村字豊岡飲食店旅館事鈴木房次郎方へ去る十一日午後七時頃自動車で乗付けた諸襟を着た青年が同家の抱酌婦新潟縣北蒲原郡聖路村生れ次郎太三女加藤スエ(三)及びやま郡一木村字廻戸生れ清八姪遠藤ヨシ(三)の兩名を相手に遊興して居たが間もなく二名の酌婦と來客は前借六百圓を踏倒して行衛を晦したので抱主は蒼くなつて平署に届出たので同署で各地に手配せる結果昨十二日朝新潟縣新津町で検擧された

鐵管専門の

賊逮捕

逃走先で御用

既報去る六日内郷村字白水地内山神社境内より大鐵管を窃取した同村御厩古物商古川汎次(三)を檢擧した平署では同人の口より本月上旬迄大町に染物屋をして居た滋賀縣坂田郡長橋町生れカッ長男大谷虎次郎(三)が昨年中東部電力平支店鐵道保線區等の倉庫より銅線百貫目時價二百餘圓の窃取し得た金で郷里滋賀縣に歸つた事が判明したので平署では滋賀縣警察部に手配して去る八日檢擧したので安藤二瓶兩刑事が急遽滋賀縣に出張して犯人を受取り目下平署で取調中である

濱の賭博

一網四名捕はる

小名濱町字定西一五一荷馬車挽小松順清(三)方で去る十一日午後三時頃同人始め同字農笠原安太郎(三)同齋藤鷲吉(三)神谷村字天神農志賀市藏(三)の四名が車座となり現金賭け花札賭博中を平署員に檢擧された

質屋の帳場から

年に四萬圓

去年・平一六銀行業態

平町にある五軒の大衆庶民金融機關である質屋さんが昨年中に取扱つた營業成績を町役場で調査したのに依ると前年未現在貸出高は九千八百三十三口金額三萬九千九百十四圓で昨年中の貸出高は二萬四千三百四十六口九萬七千十三圓受戻高が二萬二千五百九十五口九萬

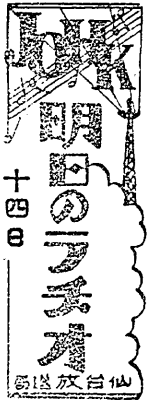
米價稍や上向

平倉庫の共販成績

既報石城郡販賣利用組合平農業倉庫の共同販賣は昨十日午後三時より同所で行ひ五等米三百五十俵を入札に附した結果平均五等建値八圓十五錢で平町の丹野周一郎、伊藤庄二郎、久保木

裁判所たより

△平橋検事局では本日浪江警察署より相馬郡原ノ町字南



今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
「ごあいさつととうた」京城より中繼
後六、二五 言葉の講座
「第九講」鼻を使ふ發音
其一 保格
後七、三〇 講演 杉浦夫
後七、三〇 講演 杉浦夫
後七、三〇 講演 杉浦夫
後七、三〇 講演 杉浦夫
後七、三〇 講演 杉浦夫

明日の部
前六、〇〇 舊曆「元旦祭」の祝詞と雅樂祝詞奏上雅樂「國幣中社大物忌神社」
前六、二〇 鶯鳴
前七、〇〇 基礎英語講座
前七、一〇 料理献立「鳥賊鍋」
前八、〇〇 家庭メモ
「舊曆元旦に就て塗物の扱ひ方に就て」
前八、〇〇 三三三 謡曲 高砂
鶴龜汲心會社中

後〇、〇五 滿洲より
後二、〇〇 家庭大學講座「植物の常識」(四) 久内清孝
後二、三五 受驗講座 漢文 黒羽英男
後六、〇〇 子供の時間
お話と郷土童謡 サムイサムイオ正月スベキヘキ
後七、三〇 講演「冬眠する動物と冬に白くなる動物」阿部隆四夫
後八、〇〇 連續浪花節
「河内山宗俊」(第三席)
木村友衛
後八、四〇 東都劇場風景

制服の盗賊就縛

失業中の若者が金に窮し

白晝小川郷の官舎を荒す

別項本欄午前三時頃湯本町雜貨煙草業商川又兼吉方を襲つた犯人檢擧に血眼となつて居る平署へ又もや同午前十一時小川駐在所より赤井村大字高萩字小沼尻鐵道官舎居住西定一外鐵道員宅數軒で三百餘圓の盜難あり犯人は既に平方面に逃走したとの急報あつたので同署では非番巡查を總動員して平内郷湯本に嚴重なる搜查網を張り手配中十二時頃湯本町表町某質店へ學生風の男が大風呂敷包を持参、入質を敷願したが舉動が怪しいので断はられたとの情報が入るや安藤刑事部長其他は直ちに湯本驛附近を警戒中

王城炭礦が

採掘開始

内郷村字白水の王城炭礦では豫てより掘進中であつたが新斜坑の下層炭田に近く着炭するが此が採掘を開始と共に採炭夫五百名の募集を行ふ筈なので地元失業坑夫は勿論湯本好問勿來等炭礦労働者街では早くも活氣を見て居る

盲夫婦水戸へ

既報

平町の木質宿に宿泊中夫婦揃つて風邪にかかり食はず飲まずの北海道空知郡瀧川町生れ按摩小林建太郎(三)同妻カネ(三)の兩名は本日町役場に出頭水戸市の知人を頼つて出發すると言ふので兩名に汽車賃を與へて出發せしめた



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第五百十七回

徳川家に崇る村正

殘念ながら取逃す
血振ひました一刀を中段に取つて

源「サア来いッ」

と身構へた源太郎のその勇氣、殊に前に一度敵なぐられてゐる連中だから小賊共はタテタテと後へ退つた

犬は一度噛まれた犬の前へ出ると、尻尾を下げて逃げ

るといふが、人間だつて同じ事だ、只一人の源太郎の爲に大勢の山賊が追ひ詰め

られる中にも氣の弱い奴はコソ／＼と逃げ出す、溝口

五左工衛門大きに怒つて

五「扱て意久地のない奴等だ、此上は人手を借りん、

サア源太郎覺悟しろ」

源「眺む處だ」

抜打ちに切つてかゝるを

源太郎バツチリ受け止めヒ

ラリ飛退つて身構へる、五

左工衛門も却々の腕前一時

は互に義兄と義弟よと呼び

合つた二人が、今はしのぎ

を削る敵同志、エツと斬り

込めば應と受ける、サツと

拂へばヒラリと變ず、千變

万化、嘘々實々暫くの間斬

り結んでゐたが、孝子の腕

や勝りけん、五左工衛門は

次第に斬り立てられて後へ

後へと退つて行くと、後は

されて行き、見る間に姿は

見えなくなつて了ひました

源太郎は殘念に思ひその後

を追つて行かうとした時に

二子山が

二「モシ且那樣、暫くお待ち

ち下さいまし、今此處で且

那樣がお出でになつてしま

ふと、あの通り山賊の禪か

細谷川の急流だ「アッ客人危ねえ後がござんせんぜ」

聲を掛けられて五左工衛門

門ヒヨイと振返つて見ると

谷川の向ふは岩嶺き、最早

是迄、と思つたから「エイ

ッ」大喝一聲、大刀を振り

かざして逆襲をした、源太

でもねえ事を言ふ奴だ……

どうかまあお武士様、是か

ら悪いことは致しませんか

ら、御勘辨を願ひます」

源「成程これは其方の言ふ

通り、此の儘で拙者が立退

いて了つて再び難儀が掛る

だらう、と言つて殺して了

ふといふもあまりに殺生だ

然らば斯ういたさう、此奴

等を繩付にして役人の手に

引渡せば宜いだらう」

二「成程それは好いお考へ

でございませう」

山賊共は驚いて

〇「冗談言つちやいけません

ん、ちつとも宜い處がある

ものですか、そんな事を仰

言らずにこの儘逃がしてお

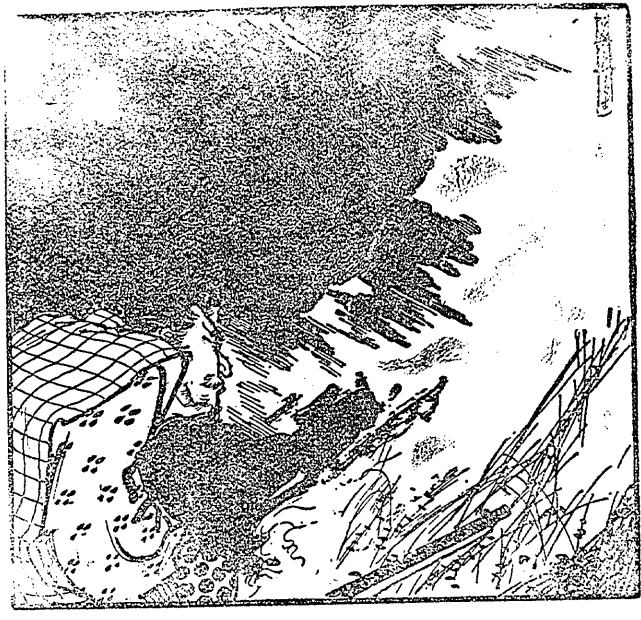
くんさい」

源「それはならん、尋常に

縛に就け、さもないに於て

は殺して了ふぞ」

〇「へい、仰言る通り縛



郎も思はず一歩飛下つた時

に、此處だと五左工衛門、

踵を返すと、身を翻へして

谷川を飛越えようとしたが

いけない飛ばれなかつたか

らこの急流へドボンと落ち

込んだ、アレ／＼といふ内

にグ／＼川下の方へ押流

し

山賊共は驚いた「手前が

相撲取だもんだから、禪か

つぎだといひやがる」「國

固より敵を探すために永く

道中を往來してゐることと

て五左衛門を討つてしまへ

ば、最早旅をする必要もな

い、それにして五左衛門は

あの急流へ落込んだこと故

押流されてゐる中に岩角へ

でも當つて、頭でも碎き、

死んでしまつた事だらうと

思ひましたが扱てその生死

判明しない中は江戸へも歸

れないから、早速一同に別

れを告げて川下を尋ねるこ

とになつた、金次郎おきく

の一行は危い處を助り、身

延山の御參詣も無事に済ま

せたが尋る新藏の行方は皆

目知れないからがっかりし

て小諸へ立ち歸りました。

二「何を言ひやがるんだ、

先刻生れ損ひといひやがつ

たくせに」

そこで賊共を縛り上げ、

金次郎初めおきくや縛られ

てゐる、一同の者を助け、

賊共を引立て、峠を下り之

は役人の手へ引渡した、金

次郎深く源太郎の恩を謝し

金「お差支えなくば信州小

諸へ御同道を願ひたい」

と申しましたが源太郎は

羽子板と破魔弓を陳列致しました スガノヤ提灯店 平町四丁目 電話九五番

平町各商店御中 平町御客様御中 平商工會

かまぼこ製造 平町一丁目 電話一四一番

共榮漆器店 初賣の景品御準備 本年は漆器の他に小雜貨類も取揃へ御便宜を計り

中村齒科醫院 平町鍛冶町七